

(II) 産卵調査

復帰後沖縄水試は南西海区ブロックに加入し、漁況予報事業を実施してきており、その一環として産卵調査を行なっている。

沖縄近海は黒潮上流域で高温系魚類の主産卵場、稚仔魚の輸送経路を間近にひかえ、しかも北方系魚類のサンマの稚仔分布の南限にもあたり、ブリ、スルメイカ、ウナギ等の産卵場とも推定され、このような重要魚種の産卵、補給、移動などの究明を目的として、更に魚類の発生初期の減耗と漁獲対象資源として加入するに至る過程の中での機構の分析と体系化を測り、漁況予報精度の向上に寄与することにつとめなければならない。

なお沖縄水試は産卵調査をはじめたばかりで、これから資料を集積していく段階で、今回は出現種類・量等を取り上げた。

(II)-1 調査の概要

イ. 調査期間

昭和47年7月から昭和48年3月まで。

ロ. 調査定線及び調査回数

久米島北西定線（沖合定線）、7回実施。

沖縄南部沿岸定線（沿A定線）、9回実施。

金武湾沿岸定線（沿B定線）、4回実施。

ハ. 調査船舶

図南丸 159.31 吨 400 馬力

赤嶺正弘船長以下20名

くろしお 21.44 吨 100 馬力

比嘉幸一船長以下6名

(II)-2 調査方法

沖合定線

丸稚ネット（口径1.3 m、側長4.5 m、緞子網部クレモナ製、4×4、200 K、こし網部ナイロン製、NGG54号付き）の表層水平5分間えい航（船速約2ノット/時）。

丸特ネット（口径45 cm、N.G.G 54号付き）150 m-0 mまで鉛直びき（1 m/秒）。

沿A、沿B定線

丸稚ネットの表層水平5分間えい航（船速2ノット/時）

丸特ネット、50 m-0 mまで鉛直びき（1 m/秒）

採集物は直ちに船上で10%フォルマリンで固定し、水試に持ち帰り、プランクトン沈殿量、浮遊油塊量を測定し、卵稚仔を固定した。

(II)-3 調査結果

1 出現種類と出現状況

3定線の丸稚ネット、丸特ネットの採集物を一括して示すと表Ⅱ-1になる。魚卵は21科24種、稚仔魚は68科115種、頭足類は7種出現し、最多出現種はネズミギスで13回、1694個体である。ハダカイワシ科8種、トビウオ科9種出現した。沖縄近海の卵稚仔の特徴としては高温系魚類が多く、種類が多様多様である。